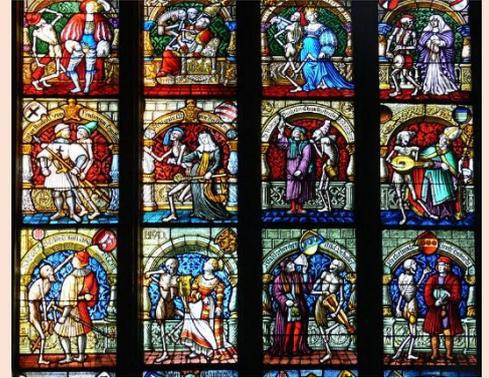


今日のおおたか中 令和2年5月14日（木）

## 感染症の歴史 ～スペインかぜ～

人類は、新型コロナウイルスで初めて感染症に立ち向かうことになったわけではありません。古代からずっと、戦いを繰り返してきたのです。現在、陽性が陰性が検査ができたり、ウイルスによるものであると断定できたり、感染経路がわかったり、治療を試みることができたりしているのも、**今までの研究、人類の感染症との戦いの積み重ね**なのです。



『死の舞踏』…14世紀中頃に流行した黒死病（ペスト）を描いた作品をさす。

ところで、インフルエンザという感染症を知らない人はいないでしょう。冬になると流行する病気ですね。インフルエンザが流行しても、今まで緊急事態宣言は出ていません。外出自粛を行う人もおそらくほとんどいないでしょう。ところが、このインフルエンザが、戦争に匹敵するレベルの人々の命を奪ったことがあったのです。それが、1918年から猛威を振るった、「**スペインかぜ**」でした。

人類初めての世界を巻き込んだ戦争である、第一次世界大戦。「スペインかぜ」とよばれたインフルエンザは、その戦争のさなかに広がりました。第一次世界大戦では、約1600万人という、それまでの戦争とは比べものにならない位の犠牲者を出しました。一方、「スペインかぜ」によって、2000万人～5000万人の方が亡くなったと言われています。



日本でマスクをつける習慣ができたのは、スペインかぜがきっかけでした。（大正時代）

**世界規模の戦争を越えるほどの死者を出したのが、みなさんもよく知る「インフルエンザ」だったのです。**

当時はまだウイルスのことがわかっていないこと、戦争中ということもあり情報が隠されていたことも、流行に拍車をかけました。そんな中でも、世界の人々は協力してこの脅威を乗り越えたのです。

日本政府は、スペインかぜの流行を食い止めるため、次のようなことを国民に呼びかけていました。

1. 病人や病人の疑いのある者、咳をしている者に近寄ってはいけない。
2. 人がたくさん集まっているところに立ち入ってはいけない。
3. 人が集まっている場所、電車、汽車の中では必ず呼吸器（マスク）をかけるか、鼻、口を手ぬぐいなどで軽く覆いなさい。

現在私たちが気をつけるべきこととよく似ていますね。なんと、100年も前の話なのです。